

平成27・28年度 長崎県教育委員会・新上五島町教育委員会 指定

研究紀要 (WEB用概要集約版)

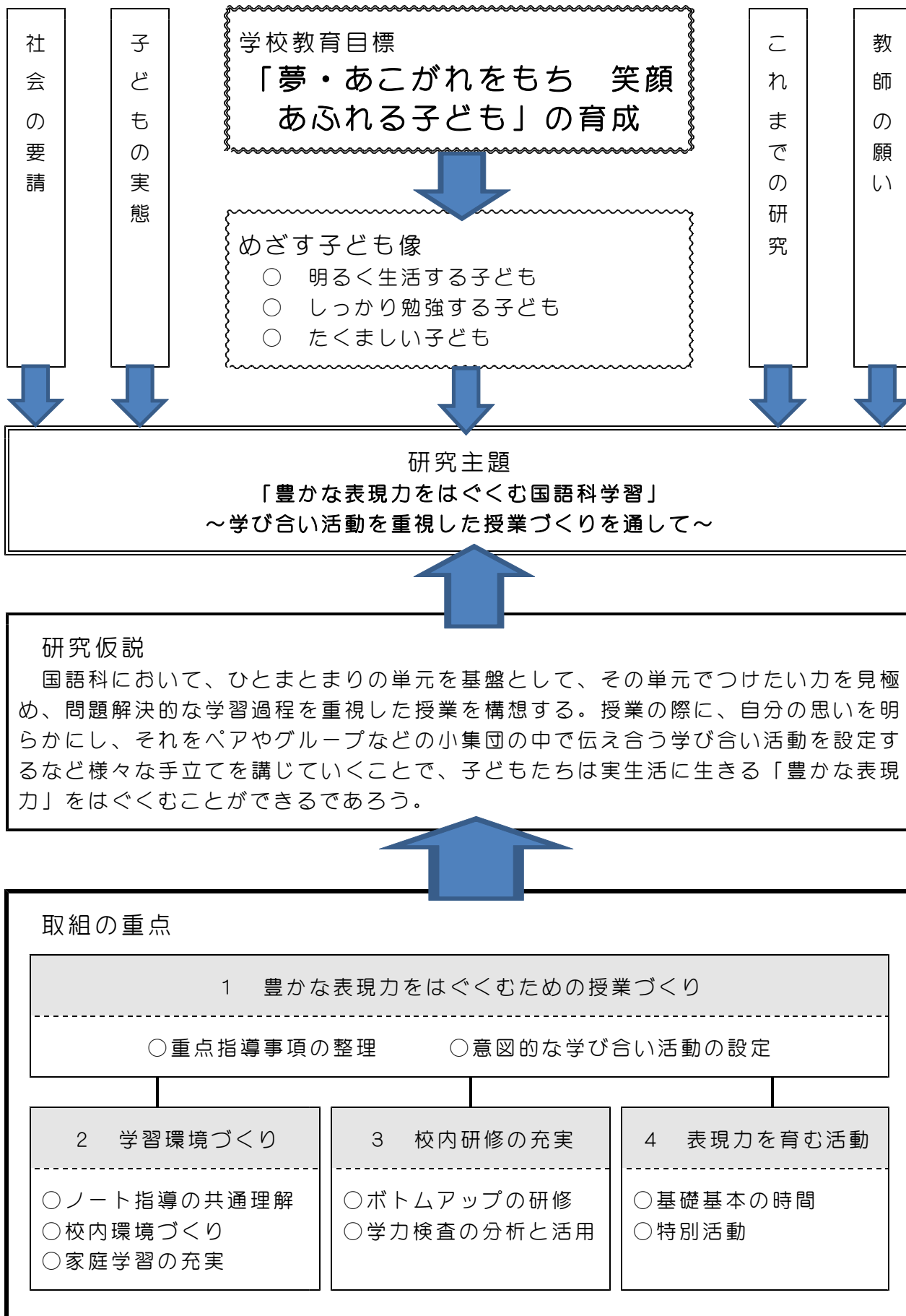
研究主題

豊かな表現力をはぐくむ国語科学習
～学び合い活動を重視した授業づくりを通して～



新上五島町立魚目小学校

新上五島町立魚目小学校 研究構想図



研究の内容

1 豊かな表現力をはぐくむための授業づくり

(1) 重点指導事項の整理

- ① 2年間を見通して指導事項を網羅できる单元ごとの指導事項一覧表を作成する。
 - ・各单元でどんな力をつけさせるのか明確にして、重点的に指導する指導内容を絞る。
 - ・指導内容の必要以上の重なりや落ちがないようにする。
- ② カリキュラム・マネジメントの視点から、全教科の単元の指導計画一覧表を作成する。
 - ・年間の見通しをもって指導を行うと共に、各教科の内容の関連を明らかにしていく。

(2) 学び合い活動の設定

- ① 学び合い活動のよさ
 - ・自分の考えを伝える場を多く設定することができる。
 - ・自分の考えを自分の言葉で相手に伝えることができる。
 - ・多様な意見を聞き、自分の考えと比較することができる。
 - ・自分の考えを振り返り、考えを広げたり深めたりすることができる。
- ② 学び合いの際の留意点
 - ・学び合いの目的を明確にする。(子どもも目的と方法を理解して学び合いに臨む)
 - ・1単位時間の中で、どの過程に設定するのが一番効果的かを考える。
 - ・意図的にグループのメンバーを構成し、話し合いの活性化を図る。

| |
|----------------------------------|
| 生活班の仲間で構成・・・考えの確認をする場合 |
| 同じ課題の仲間で構成・・・視点を絞りやすい、1つの答えに導く場合 |
| 違う課題の仲間で構成・・・多様な考え方に触れることができる |
| 異なる習熟度での構成・・・リーダーとなる子が引っ張り結果を出せる |
| 習熟度別での構成・・・低位の子どもも話し合いに参加しやすい |

- ・子どもの実態や目的に応じ、活動単位(ペア・グループ・全体)を決める。

| | |
|---|---|
| ペ | ア→2人で考えを伝え合い、確かめ合う |
| グ | ループ→3～4名程度で考えを伝え合い、考えを広げたり深めたり、より良い考えを見つけたりする |
| 全 | 体→全員で多様な意見にふれ、より良い考えにまとめていく |

- ・学び合いを活性化するために話し合いの方法を共通理解し、思考ツールを活用する。

| | | |
|--------|------------|------------|
| 本時のめあて | → 必要な思考スキル | → 思考ツールの選択 |
|--------|------------|------------|

- ・学び合いの際の教師のかかわりを大事にする。

| | | | |
|------|--------------|------|---------------|
| 実態把握 | 言葉かけ(賞賛や励まし) | 軌道修正 | 次の展開の準備(指名計画) |
|------|--------------|------|---------------|

2 学びを支える学習環境づくり

(1) 学校としての板書、ノート指導等の共通理解

①板書のルールづくり（職員）

- ・「めあて」「まとめ」は毎時間必ず設定し、板書する。（めあて、まとめカード使用）
- ・ノート指導を意識した構造的な板書を心がける。
- ・チョークの色使い（大事なことは黄色、特に大事なことは赤）。
- ・子どもが板書をノートに書き写す時間を確保する。

②ノート指導のルールづくり（子ども）

- ・基本は板書を書き写すが、必要に応じ、自分の考えや気づきを書き加える。
- ・筆記具の共通理解（B以上の濃い鉛筆、プラスチック消しゴム、定規、色鉛筆）

③話合いの約束づくり

- ・話し方、聞き方、話合い方（グループ・全体）

④学習計画や学習した内容の掲示

- ・教室側面に単元の学習計画や、学習して分かったことを掲示しておく。
- ・掲示を見ることで、学習内容のふり返りや確認がいつでも容易にできるようにする。

(2) 豊かな表現に親しむ校内環境づくり

①掲示板（中央階段・廊下）の活用

- ・早口ことは、ノートフェスティバルなどの取組を推進する。

②校内放送との連携

- ・掲示板の内容をもとに、お昼の放送の際に、呼びかけや内容を問うクイズを行う。

(3) 家庭学習の充実

①宿題3点セット + α

- ・音読、算数、漢字 + 自主学習（学年の発達段階に応じて）

②表現力をはぐくむ自主学習

- ・現在学習している内容に関連のあるものや季節などに応じた取組を行う。
- ・語彙力の向上をめざすための「語彙力を高めるノート」を活用する。

③家庭の教育力の育成

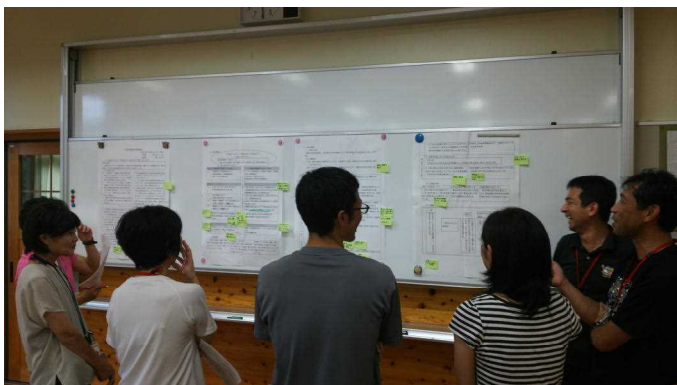
- ・「家庭学習の手引き」を修正し、学校と保護者が連携して家庭学習に取り組ませる。
- ・家庭学習で取り組んでほしい内容や取り組み方、めやすの時間などを記載する。

3 校内研修の充実

(1) ワークショップ型研修スタイルを取り入れたボトムアップの研修

ワークショップは情報の分析・再構成に有効な手段である。ワークショップを取り入れることで、「やらされる」研修から「自分たちがやりたい」研修へと職員の意識を変えることができる。それぞれの職員の主体的な取組が期待できる。

- ① 研究の内容を練り上げたり共通理解したりするためのワークショップ
 - ・子どもの実態や指導が必要だと思われることなどについて行う。
 - ・それをもとに研究の内容を作成する。
- ② 指導案検討、研究授業の協議のためのワークショップ
 - ・概念化シート、KJ法、マトリックス法、拡大指導案法など。
 - ・意見をまとめるだけでなく、それをもとに改善策を考えることが重要である。



(2) 全国学力学習状況調査や県学力調査の分析とその活用

学力調査の結果の分析をもとに本校の子どもに足りない力は何かを明らかにし、その対策に取り組む。(CAPDサイクル)

- ① 全国学力学習状況調査の問題の傾向を知る。
- ② 調査の結果から、本校の子ども課題を知る(分析)。
- ③ 課題を解決する具体的な方法(改善策)を考える。
- ④ 改善策を各学年で実践する。
- ⑤ 実践の成果と課題を確認する。(校内アンケート、次年度の学力調査)

① 課題の共有

- ・問題を読んだり解答したりすることを通して、授業で必要とされる取組を知る。
- ・分析を通して、全職員で本校の子ども課題を共有する。

② 改善策の実践

- ・課題の改善に向け、基礎基本の時間を活用して、表現力の育成に取り組む。
本校の課題…ローマ字、主語述語、引用や要約 (H28県学力調査より)

4 豊かな表現力をはぐくむ活動の設定

(1) 基礎基本の時間における表現力の育成

① 視写

- ・ 正確な文字の読み取りとともに、書く速さを養う。
- ・ テキストを活用し、全校で取り組む。

② 表現力の向上

- ・ 語彙力向上用のノートを作成し、学年ごとに取り組む。
- ・ 県学力調査、全国学力学習状況調査の結果を分析し、課題を明らかにする。
- ・ 当該学年を中心に内容を決めて取り組む。



(2) 集会等特別活動における表現力の育成

① 発表の生きた見本にする

- ・ 声の大きさ、目線、間、身振り手振り、論理的な説明（結論と理由 話す順序）

② 原稿に頼らない（見ない）発表

- ・ 聞き手の反応を見ながら、自分の言葉で話すことができるようにする。

③ 他教科・総合的な学習の時間等と国語科の関連をもたせる

- ・ 全教科の単元の指導計画一覧表に目標や内容の関連を書き込む。

④ 話のふり返りをする

- ・ 集会の最後に、感想を発表する機会を設ける。
- ・ 全校朝会後の学級指導の際に、どんな話だったか、文字数を制限して書かせる。

| | 4月(3週) | 5月(3週) | 6月(4週) | 7月(2週) | 9月 |
|-------|---|---|---|-------------------------------|----------------------|
| 学校行事等 | 着任式 第1学期始業式 入学式 歓迎集会・歓迎遠足 保健行事 | 運動会 知能検査(2、5年) | 体力テスト 魚小ふれあいウィーク | 水泳学習 宿泊体験学習(5年) 第1学期終業式 | 第2学期式 夏休み 修学旅行 |
| 国語 | つないで、つないで、一つのお話① 支度① カレーライス⑤ 漢字の広場① 春のいぶき② | 笑うから楽しい／時計の時間と心の時間⑦ 学級討論会しよう⑧ | 漢字の形と音・意味② 私と本／森へ⑤ 漢字の広場① 河鹿の屏風① 夏のさかり② | ようこそ、私たちの町へ⑫ | せんねん(熟語)② たのしみ |
| 書写 | 書く時の姿勢／筆記具の持ち方① 部分の組み立て方1(三つの部分)② | 部分の組み立て方1(三つの部分)① 部分の組み立て方2① 筆順と字形① | 用紙に合った文字の大きさと配列④ | 情報による文字の大きさと配列① 情報を効果的に | 穂先の画の |
| 社会 | 縄文のむらから古墳のくにへ⑦ | 天皇中心の国づくり⑦ 貴族のくらし③ | 武士の世の中へ⑤ 今に伝わる室町文化③ 3人の武将と天下統一⑥ | 江戸幕府と政治の安定⑤ | 町人(新しい時代)を導く |
| 算数 | 対称な図形⑫ | 円の面積⑥ 文字と式④ | 分数のかけ算⑨ 分数のわり算⑪ どんな計算になるのかな① | 角柱と円柱の体積⑤ おおよその面積や体積③ | 比と日 |
| 理科 | ものの燃え方⑧ | 植物の成長と日光の関わり⑤ 体のつくりとはたらき⑪ | 植物の成長と水の関わり⑤ | 生物同士の関わり⑤ 自由研究 | 月と |
| | 豊かな歌声をひ | いろいろな音の | | | 和音 |

発達段階に応じ、低学年はいくつ話があったか、どんな話だったか等ふり返らせる。

研究の成果と課題

| | 成 果 | 課 題 |
|----------|---|--|
| 研究全般 | <p>「ワークショップ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討などもワークショップ方式で協議を行った結果、短い時間の中でも、より多くの意見を出すことができ、研究に反映させることができた。また、全職員が主体的に研究に取り組む姿が見られるようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律等の共通理解をより深めるため、互いの授業参観を増やし、気付きを気軽に情報交換できる体制づくりを行う。 ・授業の終末の際に感想や意見を述べ、それに対する意見を交換し合う機会を設けるなどの日常的な取組を進めていく。 |
| 授業づくり | <p>「言語活動のモデルの提示」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動への不安が小さくなり意欲的に取り組ませることができた。また、表現の工夫を映像の中から見つけ出せた。 <p>「学習計画の掲示」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが見通しをもって学習に取り組めた。予習を進んで行ってくる子どもも増えてきた。 <p>「意図的なグループ編成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合う意欲が高まった。話合いの停滞が少なくなり、活動時間を有効に使えた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題別の班編成のための準備時間を確保することが難しい。 ・短い時間の中で実態を把握し、話合いが停滞しているグループには指導・助言をし、指名計画を立てることが難しい。 ・ある程度話合いでのつまづきを予想しておき、それに対する手立てを考えて準備しておき、効率的に机間指導を行うことが必要である。 |
| 指導計画部の取組 | <p>「基礎基本の時間の取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視写や「言葉集め」などの活動によって、表現力の土台となる語彙の拡充を図れた。 ・プリントに合格点の目安を設けることで、意欲的に取り組めた。 ・やり直し等を通して、内容の理解を深めることができた。 ・担任以外のサポート職員をつけることで、個に応じた指導を充実させることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体で情報交換や情報の共有を図る時間を確保することが難しかった。 ・教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら、効果的に組み合わせることが必要である。 ・子どもの取り組み方に個人差があり、活動が停滞している子どもへの支援が十分でなかった。 |
| 学習環境部の取組 | <p>「お手本ノートの掲示」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より良いノートを作ろうとする意欲が向上した。 ・教師自身の授業の進行具合やめあてとまとめの対応、板書計画を見直す機会となった。 ・他学年の学習とのつながりが見えた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導の統一を図るのに時間がかかり、更新の回数が少なかった。 ・指導について情報交換や情報の共有を図るまとまった時間を設定することができなかった。 ・「見せるためのノート」になっている子どもがあり、記述の内容より、見た目に意識が向きがちな子どもがいた。 |